

新保小学校5年生児童を 対象とする出前授業

2023年11月8日
9時15分～11時10分

目標

- おたがいを認め合い、自分も相手も笑顔になれるやさしい言葉をつかうために、大切なことについて体験を通して実感し、理解をする

「みんなちがってみんないい」

「困った状況での
嬉しい言葉・助かる関わり」

活動内容

- （全体）インクルーシブとは
- （全体）書いて伝えよう体験
- （グループごと）ブース体験
- （全体）まとめ

グループごとのブース体験

<2 ブース> 「見る」体験

- ・ アイマスクをつけて、見えない状態を実感
- ・ 見えないことで不安な気持ち、日常的に簡単な動作が難しいことを実感、戸惑い、困る体験
- ・ 声をかけてもらう、手伝ってもらうことのありがたさを実感
- ・ 困っているのかもしれないと思ったときには、「声をかけてみよう」「手伝いましょうか？と言ってみよう」を、体験を通して実感

<1 ブース> 「動く」体験

- ・ 高齢者疑似体験：手・腕に重り、サポーターを装着して、身体的機能低下を実感
- ・ 日常的に簡単な動作が難しいことを実感、戸惑い、困る体験
- ・ 声をかけてもらう、手伝ってもらうことのありがたさを実感
- ・ 困っているのかもしれないと思ったときには、「声をかけてみよう」「手伝いましょうか？と言ってみよう」を、体験を通して実感

<3 ブース> 「車いす」体験

- ・ 車いすに乗り、机にあるコップやティッシュペーパー等、依頼されたものをとってくる
- ・ 普段であれば簡単に届くものに届かない、戸惑い、困る体験
- ・ 声をかけてもらう、手伝ってもらうことのありがたさを実感
- ・ 困っているのかもしれないと思ったときには、「声をかけてみよう」「手伝いましょうか？と言ってみよう」を、体験を通して実感

<4 ブース> 「便利グッズ」体験

- ・ 軍手を着用して紙の枚数を数える、難しさ体験
- ・ 難しいこと→便利道具を使ってできる
- ・ 「道具を使ってできる人がいてもいい」を実感
- ・ 「変なの」「ずるい」ではなく、
→「それがいいんだね」「そうなんだ」
→「ちがってもいい」
「みんなちがって、みんないい！」を実感

5年生児童の感想(一部抜粋)

「車いす体験」の時に、自分から手伝ってあげたり
手伝ってもらったりすると、手伝ってあげた人は「あり
がとう」と言われてうれしくなるし、手伝ってもらった
人も手伝ってもらえてうれしくなることです。だから、
自分で考えてやったら自分も相手もうれしくなるんじや
ないかと思ったら、進んでやろうと思います。

「便利グッズ」を使ってみて、いろいろな人がいるか
ら便利グッズを使っている人も使っていない人もいて、
あたりまえなんだと分かりました。いろいろな体験をし
て、声掛けや手伝いなども「あったかハート」に入ると
いうことが分かって・・・、困っている人がいたら、迷
わずに声掛けや手伝いをしようと思いました。

新保小学校保護者を 対象とする親学び講座

誰もが安心し、自分らしく過ごせる社会、学校
～インクルーシブ教育の視点から～

2024年2月17日
9時45分～10時45分

新保小学校 目指す学校像

- ・ 「考え方や感じ方は、ちがってあたりまえ」
- ・ 「みんながそのままでいい」



お互いを認め合う



- ・ 誰もが安心
- ・ 自分らしく過ごせる



自分も相手も笑顔

- ・ 明日も来たくなる
- ・ 誰もが安心し自分らしく過ごせる

内容

インクルーシブ教育を実感するための

・ お互いの良さや違いを認め合うことにつながる

「疑似体験」

・ 安心し、自分らしく過ごすことにつながる

「考えてみましょう わが子の自慢」

わが子の
好ましい行動 ・ できている行動
よいところ ・ 自慢できるところ



わが子のよさを認めて伝えよう！



自分自身の自慢



- ・ 保護者が相談できる人と場を作る
- ・ 保護者自身もリラックスできる時間をもつ
- ・ 保護者としてではなく、自分自身のリラックス

保護者の方の感想(一部抜粋)

「疑似体験」をとおして、一人ひとりの感じ方、考え方が本当に違うことがよくわかり、互いの思いを認め合う大切さを感じました。

「インクルーシブ」について子どもたちとも話す機会をもちたいと思いました。

子どもが「インクルーシブ」な考えをできるようになるためには、まずは家庭環境をそういうふうにする必要があると思った。親子で、いろいろな面を認め合うような関係になればと思う。